

開催日：令和3年7月28日（水）

場所：三重県立美術館 会議室1、2

令和3年度第1回三重県立美術館協議会 開催結果

令和2年度事業報告、令和3年度事業進捗状況について

- ・行くところがない、制限を受けている中でやっぱり美術館に行こうという気持ちになることと、美術館が受け入れる体制を持っているということは、すごいことだと思う。関係性が断たれ、心が飢えている中で何か糧を求めているときだからこそ、美術とか芸術とかは重要な役割を果たすと考える。教育、文化、芸術関係の評価は、入館数では測れない。
- ・SDGsについては、子どもたちに対する歌まで出来ているような状況で、美術館、博物館、水族館、動物園もいろんなところを無視したらいけないと思っているが、余り言っているところがない。環境、女性に対する差別など社会に関わるところを、表立ってそこだけを出していくのではなく、美術の上でとか、博物館の歴史的な部分の上でとかとして取り上げ、ワンコーナーや、図録の中で触れ、発言していけたら、もっともっといい社会が作れるかなという気がする。
- ・大規模な災害や機械設備の不具合が発生した際の美術館の対応として、来館者や展示室の美術作品をどうするかなど、検討すべき点はたくさんある。十分考えて、対策も取っているかと思うが、色々な計画を想定して作成いただけたらと思う。
- ・令和4年度より高等学校の教科書が改訂になり、教科書のいろいろなページにQRコードが付き、そこから更に発展的な学習ができるようになる。QRコードを読み込んだ時に、美術館の情報を簡単に手に入れることができるようになるかもしれないが、そうなると美術館に色々な対応を求められる可能性がある。
- ・「美術にアクセス！」の展示を見たときに、やっぱり本物に触れるのは大事なと改めて思った。触れて鑑賞するという人間が持っている野性の感覚的なものを沸き立たせるような、鑑賞の原点に戻ったような形での展示であったと感じた。
- ・国の補助事業であるアクセシビリティ向上推進事業は、これをきっかけに、継続して展開して行ってほしいという意味合いがある。この事業をきっかけに色々なところにアクセスをして美術館とはどうあるべきかとか、どういう風に親しみを持って皆さんに来ていただけるかとかを情報収集しているわけであるから、県立美術館としてこういう視点をさらに広げていきたいというようなものを継続して行っていただけたらありがたい。

- ・「若冲と京の美術」で面白かったのは、ルートがいつもとは違って最後に必ず常設展に入ってしまうようなルートになっていたということであった。常設展に入ってしまったらすごく面白くて県立美術館の底力を感じて、逆に若冲より蕭白の印象のほうが強く残り、空間の使い方、いつもとは違う見せ方は大事なというふうに思った。
- ・県立美術館の構造的なところによるかと思うが、展覧会の場所が分かりづらいので、案内を工夫してもらえれば有難い。また、バイアフリーの観点では、トイレの洋式化の遅れや、障がい者用のトイレが分かりにくいことも気になる。
- ・令和2年度に宇田荻邨展といわさきちひろ展が中止になった。来館者などから、中止は残念だったという声や、近いうちに再び企画されるのを希望しているという声をたくさん聞いている。